

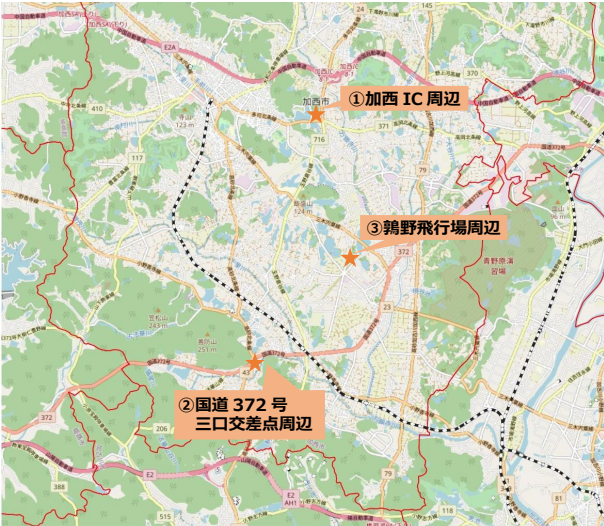
(仮称) 道の駅加西整備基本構想（令和4年3月）

概要版

1. (仮称) 道の駅加西の適地選定

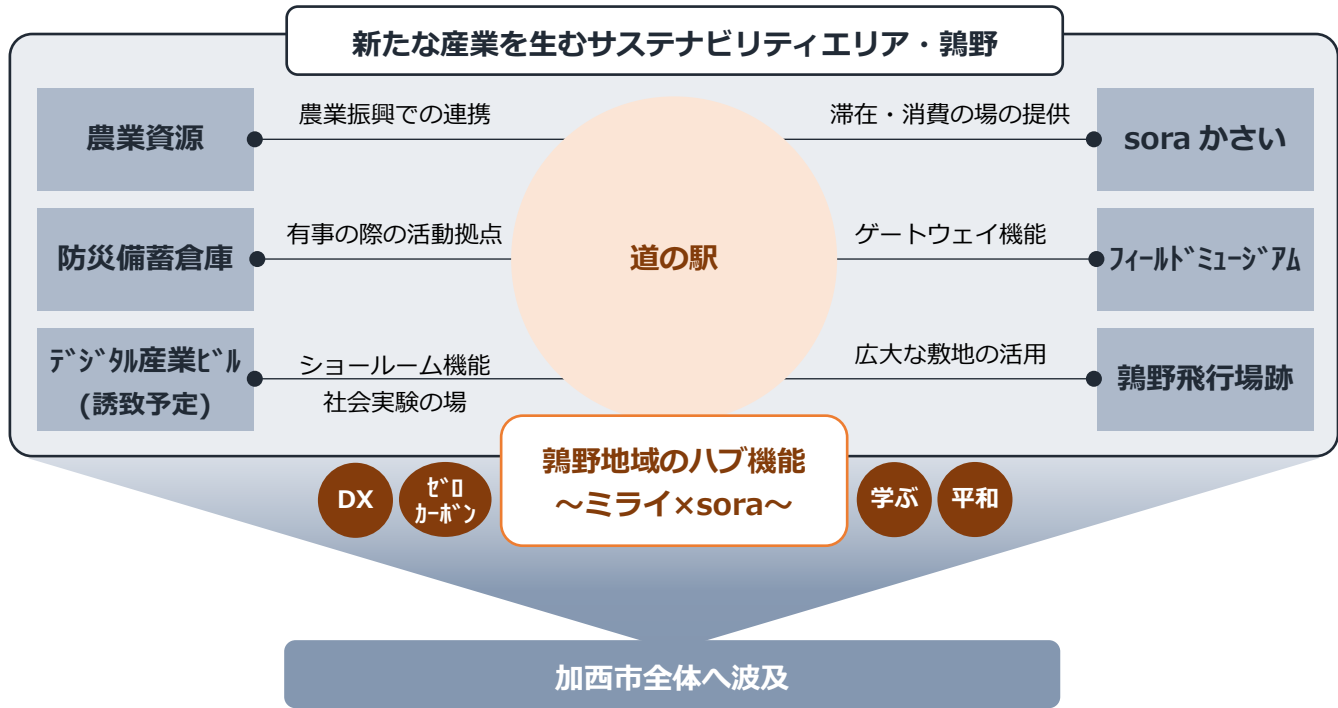
「道の駅の採択基準」に基づき、右図の3箇所を選定し、比較検討した結果、事業実現性と周辺環境との調和の観点から、鶺野飛行場跡周辺を候補地とする。

(点)	①加西 IC 周辺	②国道 372 号 三口交差点付近	③鶺野飛行場 跡周辺
集客性	16	11	14
実現可能性	24	30	33
周辺環境	10	11	14
総合評価	50	52	61



2. 基本コンセプト

鶺野飛行場跡周辺に（仮称）道の駅加西を整備するにあたって、鶺野地域全体のあり方を示す必要がある。現在の鶺野地域は、“鶺野飛行場跡を核とした平和学習（sora・空）の拠点”であり、近年注目され、集客力も高まっているが、滞在時間が短く、消費につながっていない。この課題解決の1つの方法として道の駅整備を捉えるものとし、鶺野地域にある各施設をつなぐ“ハブ機能”を持たせることが必要である。鶺野地域として重要なテーマである平和・学ぶをキーワードとした“sora(空)”に加え、加西市が積極的に取り組んでいるゼロカーボン戦略の実現や DX 化の推進等、“ミライ”志向も取り入れることで、これまでになかった道の駅を実現することが可能である（Kasai-Society5.0）。



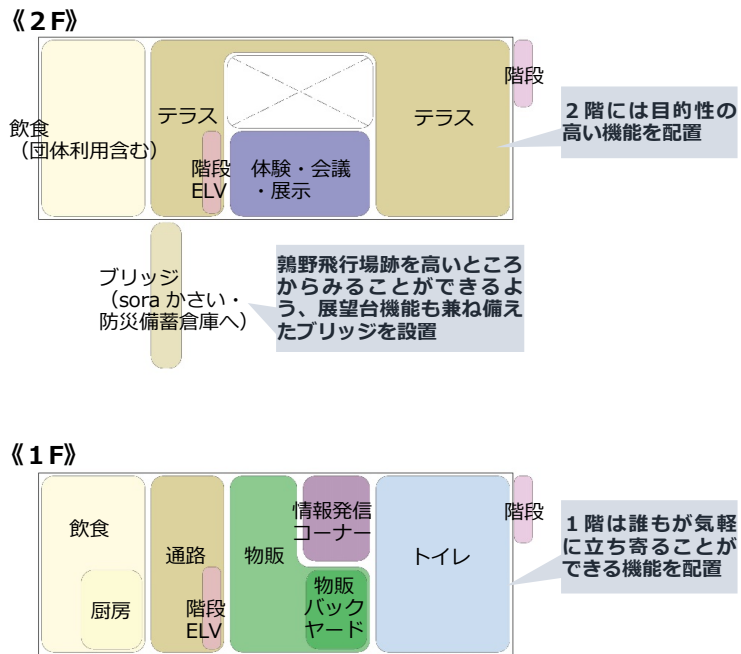
3. 導入機能（案）

コンセプト実現のために、道の駅の基本3機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）のほか、防災機能、交通結束機能、地域交流機能の導入が必要である。道の駅の特徴となる地域交流機能には、加西市の1次産業、2次産業、3次産業それぞれの振興とそれらを掛け合わせた新たな産業のイノベーションを促進する施設やサービスを導入することがコンセプト実現のために必要である。また、コンセプトの1つとして、“ミライ”志向を掲げていることから、加西市として取り組んでいるゼロカーボン戦略の実現や DX 化の推進等を実現する機能を導入することが必要である。隣接地に誘致を予定しているデジタル産業ビルにおいては、様々な未来の技術に関する企業の入居が想定されており、それらの企業が道の駅を社会実験やマーケティングに活用する将来を見据えて、受け皿となるための設備やインフラ、空間を準備しておくことが必要である。

導入機能		施設イメージ
休憩機能		● 駐車場（小型車、大型バス、大型貨物車） ● トイレ（男性、女性、多目的、キッズ） ● 授乳室
情報発信機能		● 情報発信コーナー（コンシェルジュコーナーと一体）
地域連携機能	1次産業の振興	● 農産物直売所 ● 地産地消レストラン ● テストキッチン・セミナールーム
	2次産業の振興	● 展示室 ● ものづくり体験工房
	3次産業の振興	● コンシェルジュコーナー（情報発信コーナーと一体）
防災機能		● 芝生広場（防災広場、ヘリポート）
交通結束機能		● （パークアンドライド可能な駐車台数の確保）
地域交流機能		● 多目的研修室
		+
未来の技術を受け入れることができる環境		● 新技術のショールーム機能 ● 新技術の社会実験フィールド ● 新技術類似体験機能

4. 施設規模・ゾーニング（案）

想定される具体的な施設イメージごとに、各種設計要領、ガイドライン算定値及び類似事例等を参照して算出する。1階には誰もが気軽に立ち寄ることができる機能、2階には目的性の高い施設を配置する。鶺野飛行場跡を高いところからみることができるよう、展望台機能も兼ね備えたブリッジを防災備蓄倉庫とつなぐ形で設置することも想定する。なお、上記ゾーニングは現時点でのイメージであり、《1F》今後の設計、管理運営者との協議等により変更となる可能性がある。



5. 想定される事業手法

（仮称）道の駅加西とその隣接地で想定している導入機能ごとに事業手法を検討する。
民間事業者の意見として、運営事業者の経験とノウハウを十分に発揮するには、DBO 方式等が望ましいとの意見もあった。

機能類型		機能		事業手法（案）
基本機能	A	休憩機能	駐車場、トイレ	■一般的な公共施設として整備する場合 ・PFI-BTO 手法 ■ショールーム機能への民間との共同投資が見込める場合 ・事業パートナー方式 ※パートナー事業者選定 → 施設内容・スキーム協議 ※スキーム例 ○公共施設：DBO 手法 ○民間施設：定期借家、定期借地、等
		情報発信機能	案内センター、サイネージ	
		地域連携機能	テストキッチン、体験工房、ツアー受付	
		防災機能	防災設備、広場	
		交通結節機能	交通広場	
		地域交流機能	多目的研修室	
	B	地域連携機能	農産物直売所、レストラン	・施設整備：機能類型 A と一体整備 ・施設運営：定期借家
拡張機能	C	宿泊施設 アウトドア施設 スポーツ施設 温浴施設 農業振興施設	ホテル グランピング施設等 スケートボードパーク等 スーパー銭湯等 市民農園、農業塾、スマート農業等	・定期借地

6. 今後のスケジュール

令和 4 年度に基本計画を策定するとともに開業に向けた事業スケジュールを検討、整理する。

7. 鶉野地域での道の駅整備に向けて

候補地として選定した鶉野飛行場跡周辺での整備に向けて、都市計画や基盤整備に関する課題への対応、詳細検討に向けての全庁での取組体制づくり等、令和 10 年度の開業に向けて来年度以降に詳細検討が必要である。

（仮称）道の駅加西 整備イメージ

